

第6学年 道徳指導案

- 1 主題名 本当の友達 【2-(3)信頼・友情】
資料名 『メールの返信』 (明るい心)

2 ねらい

友達どうし互いに気持ちよく付き合うことの大切さを感じ取り，友情を育んでいこうとする気持ちを高める。

3 主題について

(1) 児童の実態

高学年の児童は流行に敏感で，趣味嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向がある。6年生は，まだ幼さを残している児童も多いが，既に携帯電話を持ちメールのやりとりを頻繁に行っている児童もいる。メールは気軽に通信できる便利なものであるが，その便利さとは裏腹に様々な問題も抱えている。新しい仲間との生活がスタートして3か月，本資料の主人公と似たような事例が既に学級内で発生しており，この時期に相手の立場を考えた。

友達どうしのよりよい関係について考えさせることの必要性を感じている。

(2) 資料について

本資料は、携帯電話のメール交換が原因で友達関係がぎくしゃくしてしまうという最近の小学生にもよく見られる事例を題材としている。主人公のユミは、携帯電話で友達のナナとメールの交換を頻繁にし合っていた。そのことで母親から注意を受けたため、家族で携帯電話のルールを決めることになる。相手の都合を考えずにメールを送ってくるナナと、家族で決めたルールを守り返信をしなかったユミとの関係は気まずくなっていく。すでに携帯電話を使ってメール交換をしている児童には共感できる部分が多く、主人公とナナの言動を通して、よりよい友達関係をつくるには相手のことを考えた行動をすることが大切であることを自覚させるのに適した資料であると考えた。

(3) 教師の願い

人は多くの人との関わり合いの中で生きている。よりよい人間関係を築くには、相手の存在を認め相手のことを考える気持ちをもたなければならない。相手の立場や考えを尊重して友達と接していかうとする態度を育てることは、とても大切なことである。資料『メールの返信』を読み深めることで、主人公ユミの心情に共感させながら、本当の友達とは何かを考えさせたい。また、この機会を通して、携帯電話を持つ際のマナーやルールなどについても考えさせたい。

4 用意するもの

教師…資料『メールの返信』 切り抜き絵 ワークシート

5 展開

段階	児童の活動	教師の活動（支援と評価）
導入	1 友達について発表する。 ・気軽に会話ができる。 ・いつも一緒に遊べる。 ・何でも相談できる。	友達についての感想を話題にすることで、自由に意見を出し合える雰囲気をつくる。
展開	2 資料「メールの返信」を読み、登場人物の行動や気持ちについて話し合う。 「けじめも必要」という母親の言葉をどう思いますか。 ・夜にメールがくると宿題に集中できないから賛成。 ・メールが来たのに返信できないといやだから反対。 ナナに無視されたとき、わたし（ユミ）はどんなことを考えていたでしょう。 ・どうしておこっているんだろう。 ・9時以降メールしないことをおこっているのかな。 あなたがナナだったら、ユミの【昨日はごめんね...】というメールに対してどんな返信メールを送りますか。 ・親友なのにちょっと冷たいんじゃないの。 ・こっちこそごめんね。9時以降は返信できないって知っていたのに...。	資料を分割提示することで、ユミやナナの場面ごとの心情をとらえやすくする。 どちらの意見でも遠慮なく発言できるように配慮する。 ユミは賛成の立場であることをおさえる。 ナナとの関係がますます悪くなっていくかも知れないというユミの不安な気持ちを感じ取らせる。 互いの立場を理解した言動をとることが大切であることを感じ取ることができたか、ワークシートの記述から判断する。
展開	3 自分の生活を振り返る。	友達とトラブルになったとき、あなたはどんな行動を

	内面的自覚	<p>取りましたか。</p> <p>・自分からは話しかけられなかった。</p> <p>・自分の気持ちを伝えたらわかってくれた。</p>	<p>主人公のユミと似たような経験がこれまでになかったか思い出させる。</p>
終末	まとめ	<p>4 教師の話聞く。</p>	<p>友達をテーマにして書かれた投書を紹介することで余韻をもって終わらせたい。</p>

6 評価

- ・友達どうし互いに気持ちよく付き合うことの大切さを感じ取り，友情を育んでいこうとする気持ちを高めることができたか，授業中の発言やワークシートから判断する。

高評